

2026 年度「応用ゼミナール」ミニシラバス（国際観光学科）

担当者名	青木 洋高
授業のテーマ	ご当地グルメを活用した地域プロモーション
授業の内容	ご当地グルメをはじめ、その土地に根差した「食」を活用して地域活性化に取り組む事例が増えています。「食」は観光行動において重要な要素になっているほか、急増するインバウンド旅行者にとっても日本の「食」は魅力的なコンテンツです。ご当地グルメによる地域価値の向上につながる地域プロモーションのプロセスについて、具体的な事例をもとに検討を行います。ゼミ生主体の対話やディスカッション、プレゼンテーションなどの機会を積極的に設けます。
サブテキストなど	資料類は適宜、配布します。
お勧め対象	ご当地グルメ、フードツーリズムに関心のある学生 地域プロモーションの手法について学びたい学生

担当者名	清水麻帆
授業のテーマ	文化観光から「持続可能な社会」を考える～世界遺産から食文化、ポップカルチャーまで
授業の内容	世界遺産の登録されることは地域や社会にとって本当に良いことなのだろうか。リゾートやエンターテインメントを含むカジノ観光は自然や日常生活に利益をもたらしているのか。アニメや映画などのコンテンツツーリズム（聖地巡礼）は持続して地域に貢献できるのか。食文化観光は地域の持続可能な発展に貢献するのか。これらの「是非」について、グループでディスカッションやディベートを実践し、皆で結論を導き出します。ゲーム感覚で専門知識やディベート・ディスカッションのスキルの習得を授業の目的としています。これらのスキルを卒業論文や企業面接など、今後活かせるよう取り組んでもらえたらと思います。
サブテキストなど	適宜、資料やプリント等は授業内で配布します。
お勧め対象	・「文化」や「観光」、「持続可能な社会」、「まちづくり」などに関心のある人 ・ディベートやディスカッション（理論的な思考や他の人に自分の主張を伝えるため）のスキルを身につけたい人

担当者名	種村聡子
授業のテーマ	ホスピタリティ・マネジメント入門
授業の内容	ホスピタリティ・ビジネスの具体的事例から、サービス提供や接客に必要なことは何かを考えます。ロボットによる接客が選ばれる一方で、ホスピタリティ・マインド溢れる接客を求める客もいます。従業員の管理やホスピタリティ・マインドの醸成について、ディスカッションをします。授業では、提示する文献リストから各人が選んだ文献の内容をまとめ、発表をします。また、ホスピタリティ産業や接客担当者が抱える問題をテーマにディベートを試みます。
サブテキストなど	文献は教員が準備します。川原洋一(2024)『ANA のカイゼン』かんき出版、中沢康彦(2009)『星野リゾートの事件簿』日経 BP などの書籍。その他、必要に応じて指示します。
お勧め対象	将来、接客業や観光関連産業に就きたいと考えている学生、サービスやホスピタリティに興味を持っている学生。

担当者名	利根川由奈
授業のテーマ	現代アートとダイバーシティ
授業の内容	「現代アート」という言葉を耳にしたことはあっても、いったい何を指すのかわからないし、なんとなく難しそうだなあとと思っている方が多いと思います。現代アートは言語情報ではないので、明確な答えはなく、人によって解釈はさまざまです。さまざまだからこそ、自分と違う意見の人と意見交換することで見えてくる地平があります。具体的には、20 世紀以降の現代アート作品を取り上げ、作品の鑑賞方法や多様な文化背景、作家情報をカードなどを使って学びながら、現代アートの現代社会における意義について考えます。ほぼ毎回の授業でディスカッション、プレゼンテーションを行い、1～2 回ディベートを行います。また、1～2 回実地調査(展覧会見学)に行く予定です。
サブテキストなど	山本浩貴『12 ヶ月で学ぶ現代アート入門』美術出版社、2025 年、毛利嘉孝『バンクシー:アート・テロリスト』光文社、2019 年、など。適宜授業内で指示します。
お勧め対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代アート、美術全般に興味があり、深く考えてみたい方。</li> <li>・興味はあるけれど「アートってなんだか難しそうだな」と思っている方。</li> <li>・現代社会の文化情勢について考えてみたい方。</li> </ul>

担当者名	中井治郎
授業のテーマ	旅を「読む」そして「考える」～これからのツーリズム・リテラシー
授業の内容	観光の現場では旅をする人の姿勢が問われ始めています。それは観光マナーなどの問題だけではなく、どのようにすればもっと「深い」旅ができるのかという問い直しともいえます。本ゼミではそれぞれの自分自身の旅行経験とベストセラーとなったオードリー若林さんのキューバ旅行記『表参道のセレブ犬とカバーニャ要塞の野良犬』を題材とし、講読とグループ・ディスカッションを通して「旅する人は何を体験し、何を感じ、そしてどのように〈自分〉が変わるのか」という視点から分析的に現代の観光体験を考える訓練を行います。
サブテキストなど	若林正恭『表参道のセレブ犬とカバーニャ要塞の野良犬』（文庫版を推奨）の入手が必須となります
お勧め対象	ひとり旅に憧れのある人、作品の感想を誰かと語り合うのが好きな人。

担当者名	黛 陽子
授業のテーマ	文化、地元の生活、ウェルビーイングの観光
授業の内容	旅先での立ち寄りによる見聞、体験、交流、感動は、非日常な未知との出会いが心身の健康にプラスの効用をもたらすとともに、豊かな時間の獲得、多様な人生経験の一部となります。このテーマに「（気持ちの上での）幸せと健康(ウェルビーイング)」があります。サステナブル(持続可能)なツーリズムとは、住む人も訪れる人も、双方でメリットがあるハッピーでなければ続きません。キーワードは、現地の人々の「生活への溶け込み」、「私たち自身の時間」、「互いの心の健康(ウェルビーイング)」。
サブテキストなど	その時々で配布
お勧め対象	観光先の文化や生活に触れること、自分自身を見つめる時間、人々とのコミュニケーションを「楽しい、嬉しい!」と思える方にお勧めします!